



【DMATとは】

「DMAT（ディーマット）」とは「災害急性期に活動できる機動性を持った、トレーニングを受けた医療チーム」と定義されており「Disaster Medical Assistance Team（災害派遣医療チーム）」の略称で、医師、看護師、業務調整員（救急救命士、薬剤師、コメディカル、事務員等）で構成されており、地域の救急医療体制だけでは対応出来ないほどの大規模災害や事故などの現場に急行する医療チームのことです。

【DMATになるには】

まず、DMAT隊員になるには、国立病院機構災害医療センター（東京都立川市）または兵庫県災害医療センター（兵庫県神戸市）で行われている「DMAT養成研修」を受講しなければなりません。

私は2013年5月に神戸市の災害医療センターで研修を受けました。研修のスケジュールは、1日目・座学、2日目・座学、3日目・座

た訓練で、その凄さに驚きつつも数に限りがあるという課題を感じました。

【中国地方集団災害医療救護訓練】

11月9日には福山市民病院も訓練会場となった、広島県を中心とした「中国地方集団災害医療救護訓練」が行われました。

この訓練の設定は「2013年11月9日午前8時30分、安芸灘〜伊予灘にかけてマグニチュード7.25の大規模地震が発生し、広島において震度6弱であった」というものでした。訓練の目的は、広島県内で大規模地震が発生した場合に、迅速・効果的な広域医療体制が確保できるように、広島県と広島DMAT事務局が中心となり、中国地区5県のDMAT及び消防等の防災関係機関が合同訓練を実施し、緊密な連携強化を図ることでした。

私の今回の役割はDMAT隊員として広島県東部の拠点病院となつた福山市民病院にDMAT対策本部を立ち上げ運営を行うことで、業務調整員として部長の宮庄先生（統括DMAT）指示の下、通信関係を担当しました。通信関係の主な仕事は、衛星電話や携帯電話を使用し、連絡手段の確保やインターネット



10時を過ぎると県外のDMAT隊が続々と福山市民病院に集まってきました。10時50分、山陽自動車道山陽線、化学薬品を載せたタンクローリーと高速バスが接触し多数のけが人

ト環境の構築、またEMIS（広域災害救急医療情報システム）を使用した情報収集です。それでは、訓練内容について報告します。

8時30分に地震が発生し、10分後には中国地区DMAT隊に待機要請のメールが送られてきました。この時、県では対策本部が立ち上がりました。

9時40分に中国地区DMAT隊に派遣要請のメールが送られ、福山市民病院にはDMAT本部立ち上げ要請の連絡が入ったので、宮庄隊長の下、病院にDMAT本部を立ち上げました。その後、県の対策本部にDMAT本部の立ち上げを報告しました。そうすると、中国地区のDMAT隊にメールで「福山市民病院と山陽自動車道沼田PA上り線に参集せよ」とメールが入りました。10時を過ぎると県外のDMAT



が出ていると報告が入りました。この時には、DMAT本部では、広島県の被災状況や医療資器材などの情報集めで大忙しでした。12時近くになると、続々と模擬患者が搬送されてきました。今回は化学

学薬品による汚染があつたので、病院の外では除染テントを設置して本格的な除染も行いました。ホールコア（当院の大ホール）では、赤エリア・黄エリア・緑エリアに区切られ、それぞれの症状に合わせて当院の医師・看護師、支援に来てくれたDMAT隊が連携し治療を行いました。DMAT本部では、福山市民病院対策本部と連携し、患者の数や状態の把握、刻々と変わる被災状況の情報収集をしていました。そして、気づいた時には訓練終了の14時になっていました。

【DMATの訓練】

晴れて正式にDMAT隊員となった後、多くの訓練に参加しました。まず、8月に鳥取県的美保基地で自衛隊の所有する航空機「C-1」に患者を乗せて搬送する訓練に参加しました。航空機内では揺れがある



ため、医療資器材をバックポートなどに固定する方法や、患者の固定方法、航空機内でのサインや動きなど知らないことはかなりとても勉強になりました。

続いて、8月末には9月1日の「防災の日」を前に、南海トラフの巨大地震により愛知、三重、和歌山に甚大な被害が出たとの想定で、自衛隊機を使って遠隔地の医療機関に負傷者を搬送したりする広域医療搬送訓練がありました。私達は津波で倒壊した沿岸部の医療機関に代わって三重県尾鷲市沖に停泊した海上自衛隊の輸送艦「しもきた」へ乗船し、ヘリで搬送されて来る患者に対する陸・海・空自衛隊との医療連携活動の訓練を行いました。この輸送艦には5つのコンテナにそれぞれ手術室や滅菌設備などが入った「医療モジュール」が設置されており、他にも、血液検査やX線撮影などが可能で、あたかも一つの小さな病院のようでした。

さらに、10月には広島空港で航空機火災を想定した訓練もありました。私達もDMAT隊として参加し、広島県では初の「電子トリアージタグ」を使用し



今回のDMAT本部立ち上げ・運営では、事前準備も行うことができて、必要なものはそろっていたので、多少の混乱はあったものの問題なく対応できました。特に良かったことは、現在病院に備蓄されている物資と場所を確認できたことです。今回の訓練の経験を活かし、実際に災害が起きた時も迅速な行動ができるように、今後も頑張っていきたいと思っています。

【余談ですが…】

DMATをテーマにしたマンガ「Dr. DMAT〜瓦礫の下のヒポクラテス〜」（作・高野洋／画・菊地昭夫集英社刊）がグランドジャンプにて連載中で、2014年1月には関ジャニ∞の大倉忠義さん主演でテレビドラマ化されます。興味がある方は是非見てみてください。